

東北大学大学院情報科学研究科
言語変化・変異研究ユニット主催

講演会のご案内

講師

三宅 知宏 先生

(大阪大学大学院文学研究科 准教授)

日時： 2017年11月20日(月) 15時～17時
場所： 情報科学研究科棟 3階 小講義室
題目： 「『文法化』と共時的研究
—日本語の補助動詞を中心に—」

概要：

本発表では、本来、通時的な観点が内在していると思われる、いわゆる「文法化」という概念が、共時的な研究においても有効なものであることを、主として日本語の「補助動詞」を含む「構文」の分析に基づいて、検証する。

日本語の「補助動詞」とは、“～テ+イル/オク/シマウ/…”など、動詞のいわゆる「テ形」に後接し、一種の複雑述語としての用法を持つ一群の動詞のことを指す。これらは、補助動詞としての用法を持つようになるにあたって、本動詞としての用法に比して、意味の抽象化および機能語的な性質の獲得が見られることから、いわゆる「文法化」(機能語化)を考える際に格好のデータとなり得るものである。

また、補助動詞における意味の抽象化は、多くの場合、「構文的意味」の一部を担うということによって生じているとみなせるため、補助動詞を含む「構文」を分析するにあたって、「文法化」の観点は重要であると考えられる。

具体的には、音韻、形態、統語の面から補助動詞の機能語的な性質を確認した後、補助動詞を含む、日本語における「構文」を複数取り上げて、英語と対照しつつ議論する。

結果として、「文法化」という概念を共時的な研究に適用する意義を、同一の形式における内容語的な用法と機能語的な用法との連続性、及び両者の有機的な関連性を捉えることが可能になるということに、本発表の主張は集約される。

多数の方のご来聴を歓迎いたします(申し込み・参加費不要)

本講演会は、東北大学運営費交付金、東北大学大学院情報科学研究科講演会・シンポジウム開催支援経費、科学研究費・基盤研究(C)課題番号16K02753(形態部門と統語部門にまたがる文法化と構文化についての統語論的研究)による補助を受けています。

問い合わせ先：小川芳樹(ogawa@ling.human.is.tohoku.ac.jp)

言語変化・変異研究ユニット

URL：<http://ling.human.is.tohoku.ac.jp/change/home.html>